

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型キッズなかま			
○保護者評価実施期間	R7年 1月 6日		～	R7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	R7年 1月 6日		～	R7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療依存度の高いお子様に対しても、安心してご利用いただけている	医療機関（主治医）から指示書をいただき、安全な医療の提供を行っている 身体的に成長期にあるお子様を対象としているため、年齢が上がる毎に治療方針や、内服薬等が変化することが多い。それを踏まえて、保護者の方とも密な情報交換を行い最新の情報をもとに対応していく	基本的な医療行為に関して所内で研修・実習を行い、専門職が統一された技術を提供できる体制を作っていく リハビリに関しても、実際のリハビリを行っている場面を見学させていただき、PT/OTと連携しながら支援を進めていきたい

2	保護者様の生活、他のご家族（ご兄弟等）の生活が安定して送れるようなサポートができています	保護者様、ご兄弟様が落ち着いて生活できるよう、ご利用時間の延長や送迎の対応を行っている 急なご要望にも、できるだけ対応できるよう心がけている	送迎時等に、保護者様とゆっくり話せる機会を意識的に作っていく 個別支援計画の更新など、モニタリング時期にはゆっくり面談できる時間を作るよう配慮する（保護者様の都合に合わせて）
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	普通の住宅を利用して事業を行っているため、玄関や室内に段差が合ったり、室内に段差がありお子様の安全を確保するための配慮が必要	現在は玄関に木製のスロープを利用し、バギーの出入りをサポート中 室内はクッション性のあるマットの使用などで怪我の防止が必要	日々のスロープの安全確認を怠らない 動けるお子様がけが等ないように、マットやクッションの利用を行っていく
2			

3			
---	--	--	--